



鈴木 順一作

「鳶ヶ崎遠望」

鳶ヶ崎は南知多にある海沿いの町。夏は海水浴や潮干狩りで有名。作者はこの地の出身で港やそこで働く人々に魅了され、点描による多くの鮮やかな作品を手がけています。きらめく海と心地よい潮風が感じ取れます。



野村 卯作

「メルクの僧院」

オーストリアにあるメルク修道院は世界遺産に指定されています。本作品では、手前に階段を大きく描き、遠くに修道院を望むという大胆ながらよくまとまった構図をとりました。日光が反射してきらめいているようです。

「そうすい」の題名は、色のイメージの響きからです。筆で何度も薄い絵の具を塗り重ね、より透明で深い表現を目指しました。ある日友人がアトリエを訪れたとき、シャンソンを聞きながら画想が浮かんだ思い出の作品。



楠 崇子作

「蒼翠」

セーヌ川にはさまざまな形の橋が架かっています。本作品中のものは、ボン・デ・ザール（芸術橋）というパリで最初の鉄製の橋。それも含め、画面全体をやさしい色彩とメリハリある筆致により、爽やかに仕上げています。



小林 雅英作

「ラ・セーヌ」